

CARUSO Carsharing とは

CARUSO は移動手段の充実と、持続可能なライフスタイルを結びつけることを企図した民間の取り組みからスタートしました。オーストリア政府からの研究開発のための助成金によって、「コミュニティ・カーシェアリング」のサービスを開発することが可能となりました。オンライン予約システムや様々な車載システム、そして法的な面や組織づくりに関する様々な問題が解決されてきました。その成功、特に地方部での電気自動車によるカーシェアリングのそれは、CARUSO Carsharing 協同組合の設立へと繋がりました。

CARUSO の歴史

カーシェアリングは持続可能な交通体系や移動手段の実現を支える素晴らしいコンセプトです。交通量そのものの削減や、資源の消費、騒音、大気汚染といった交通がもたらす負の側面を軽減するだけでなく、移動することの利便性を改善し、コミュニティをサポートします。

CARUSO の出発点はオーストリア・ブレゲンツ市内の、「マロニホーフ」と呼ばれる、とある集合住宅です。この集合住宅は、移動手段や交通といった分野を含めた環境問題に関心のある住宅協同組合によって建設されました。従って、徒歩や自転車のための良好な環境を住宅の設計段階から組み込むことに加えて、車をシェアしながら使うことも明らかな方策でした。

実社会において車を共同で利用するための条件は、共同で利用する車の使用は個人所有の車と同じように快適であるべきで、また料金があまりに高すぎたはいけません。これはつまり、自動化された走行記録管理、24 時間利用可能なオンライン予約システムや自動車へのアクセス、誰にでも分かりやすいルールと、利用者もルール作りに参加できる仕組み、そして頻繁に運転する人も含めた利用者にとって魅力的な料金を備えている必要があるということです。国内の既存のカーシェアリング事業者との協力も検討されましたが、それらは高コストで、なおかつ十分な柔軟さも持ち合わせていませんでした。

国からの助成金を得て、関心を持ち集った小企業やエンジニア事務所からなるグループにより、研究開発プロジェクトが遂行されました。それにより、オンライン予約システムやいくつかの車載システムが開発・テストされました。このシステムを用いた「コミュニティ・カーシェアリング」はブレゲンツの「マロニホーフ」の住民のみならず、他のグループでも、実際の生活環境のもとでテストされました。研究開発プロジェクトでは、技術開発のみならず、税の取り扱い、法律、保険、契約、料金等の計算方法などの、「コミュニティ・カーシェアリング」に必要な様々な側面について検討がなされました。

集合住宅「マロニホーフ」でのカーシェアリングは大いに発展しました。現在は 4 台の共用の車に落ち着き、そのうちの 1 台は電気自動車です。もっとも成功した実績は、地方自治体によるプロジェクトです。これらは通常、公益法人や民間団体、または地方自治体それ自体によって運営されていますが、各自治体がそれぞれのカーシェアリングのサービスをサポートし、特に財政面の不安定さをバックアップしていることが重要です。

研究開発プロジェクトが完了した後も、多くの組織やグループがカーシェアリング導入のために CARUSO による支援を求めました。特にこんにち重要な課題となっている電力をエネルギー源とした交通体系の構築は、先導的なプロジェクトを強く後押ししています。

地域ごとの取り組みのサポートを持続的に可能とするために、創設者の Hubert Rhomberg と交通・モビリティの専門家である Christian Steger-Vonmetz は、2015 年 6 月に CARUSO カーシェアリング協同組合を設立しました。

もう一つ、この研究開発から生まれた企業は、オンライン予約システムを開発・運営する会社 ZEMTU です。

CARUSO が目指すものは、すべての関係者への、ネットワークされ持続可能な交通体系へ向けた取り組みを進めていくためへの、そして地域ごとの取り組みをつないでいくプラットフォームとなることです。

すでに協同組合としての最初の 1 年の間に、運輸連合、地方自治体、電力公社、そして複数の地域を代表する企業といった、重要な関係者を組合員として迎えることができました。これらを通して、地方部でさえも、そして電気自動車によっても成長することとなった、カーシェアリングのオーストリアにおける持続的な発展の礎が築かれたのです。